



## ナシ黒星病の発生に注意しましょう!!

～早期発見、早期防除の徹底を～

例年、梅雨期を中心に、ナシの難防除病害である黒星病が発生・蔓延しやすくなります。ナシ黒星病は、葉や果実、果そう基部などに黒いすす状の病斑をつくります。そこで形成された分生子が、降雨の時に分散して二次感染を繰り返します。

★ ナシ「幸水」の果実に対する黒星病の感受性（病気にかかりやすい状態）が高まる期間（6月上旬頃～7月中旬頃：地域により若干異なる）は薬剤の散布間隔が10日以上空かないように注意して、効果の高い薬剤を確実に散布してください。 ★

黒星病の感受性（病気にかかりやすい状態）が高まる時期は2回

- ① 開花直後から20日後頃まで →4月中旬頃～5月上旬頃（地域により異なる）  
② 開花後 55 日後頃から 90 日後頃 →6月上旬頃～7月中旬頃（       "       ）



葉柄上の病斑



果実（幼果）での被害  
（写真：病害虫防除所）

### 防除のポイント

- 1 必ず、発病した葉や果実、果そう基部などを除去し、土中に埋めるなど適切に処分した後に薬剤散布を行う。
- 2 令和6年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を調整し、防除適期を逃さないようにしてください。
- 3 SSによる薬剤散布にあたっては、10aあたり250ℓ+補正散布50ℓを目安に十分な薬量で、かけむらの無いよう園内を縦横に走行して丁寧に散布してください。  
なお、圃場の周縁部など薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行うことが重要です。



表1 令和6年版 露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例（茨城県）の殺菌剤防除（殺菌剤のみ殺虫剤除く）

| 防 除 時 期       | 防 除 薬 剤       | 希釈倍数    | 分類      |
|---------------|---------------|---------|---------|
| 養分転換期（5月下旬）   | ベルコートフロアブル    | 1, 500倍 | M7      |
| 6月上旬          | オキシラン水和剤      | 600倍    | M1 と M4 |
| 6月中旬          | カナメフロアブル      | 4, 000倍 | 7       |
| 6月下旬          | キャプレート水和剤     | 600倍    | 1 と M4  |
| 新梢発育停止期（7月上旬） | ストロビードライフロアブル | 3, 000倍 | 11      |
| 7月中旬          | ミギワ20フロアブル    | 4, 000倍 | 52      |
|               | ベルコートフロアブル    | 1, 500倍 | M7      |

注）分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。